

II 畜産物の価格安定業務

1 指定乳製品

(1) 概況

ア 乳用牛の飼養戸数及び飼養頭数

飼養戸数は、昭和 38 年の 41 万 7,600 戸をピークにその後毎年減少し、平成 23 年 2 月 1 日現在では前年に比べて 4.1%減の 2 万 1,000 戸となった。近年における戸数の減少は、経営者の高齢化と後継者不足等に加え、飼料価格の高騰など酪農情勢が厳しさを増していることにより、小規模層を中心に離農するケースが増えたためと考えられる。

次に、飼養頭数について見ると、飼養戸数の減少を反映して、前年に比べて 1.1%減の 146 万 7,000 頭となった。飼養戸数の減少と規模拡大傾向を反映して、1 戸当たりの飼養頭数は前年の 67.8 頭から 69.9 頭とやや増加した（表 5 参照）。

表 5 乳用牛の飼養戸数・飼養頭数

区分 調査年月日	飼養戸数		飼養頭数		1 戸当たりの飼養頭数	
	戸数 (千戸)	前年比 (%)	頭数 (千頭)	前年比 (%)	頭数 (頭)	前年比 (%)
22. 2. 1	21.9	94.8	1,484	98.9	67.8	104.5
23. 2. 1	21.0	95.9	1,467	98.9	69.9	103.1

資料：農林水産省「畜産統計」

イ 生乳の需給

平成 22 年度の生乳生産は、記録的な猛暑による生産量減少により、北海道が前年度比 99.1%と 4 年ぶりにマイナスに転じ、都府県も同 94.5%と減少したことから全国計で同 96.8%となった。

次に、牛乳等向け生乳処理量について見ると、大部分を占める牛乳の需要が引き続き減退したことから、同 97.4%と前年度をやや下回った（表 6 参照）。

表6 生乳生産と用途別処理量

(単位：千トン、%)

区分 年度	生乳生産量		処理内訳					
			牛乳等向け		乳製品向け		その他向け	
	数量	前年度比	数量	前年度比	数量	前年度比	数量	前年度比
18	8,091	97.6	4,620	97.5	3,389	97.6	82	99.7
19	8,024	99.2	4,508	97.6	3,433	101.3	83	101.7
20	7,945	99.0	4,415	97.9	3,451	100.5	80	95.9
21	7,881	99.2	4,219	95.6	3,587	103.9	76	95.5
22	7,631	96.8	4,110	97.4	3,451	96.2	70	92.5

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

ウ 指定乳製品の生産量

平成22年度のバター及び脱脂粉乳の生産量は、生乳生産量減少の影響を受け、それぞれ前年度比85.5%及び87.4%と大幅に減少した。全脂加糖れん乳は同96.1%、脱脂加糖れん乳は同93.9%といずれも前年度を下回った(表7参照)。

表7 指定乳製品の生産量

(単位：トン、%)

区分 年度	バター		脱脂粉乳		全脂加糖れん乳		脱脂加糖れん乳	
	数量	対前年度比	数量	対前年度比	数量	対前年度比	数量	対前年度比
18	78,001	91.3	177,036	93.3	36,112	111.9	6,053	90.0
19	75,058	96.2	171,441	96.8	36,453	100.9	6,140	101.4
20	71,898	95.8	155,282	90.6	38,340	105.2	6,119	99.7
21	81,972	114.0	170,179	109.6	37,730	98.4	4,913	80.3
22	70,119	85.5	148,786	87.4	36,266	96.1	4,613	93.9

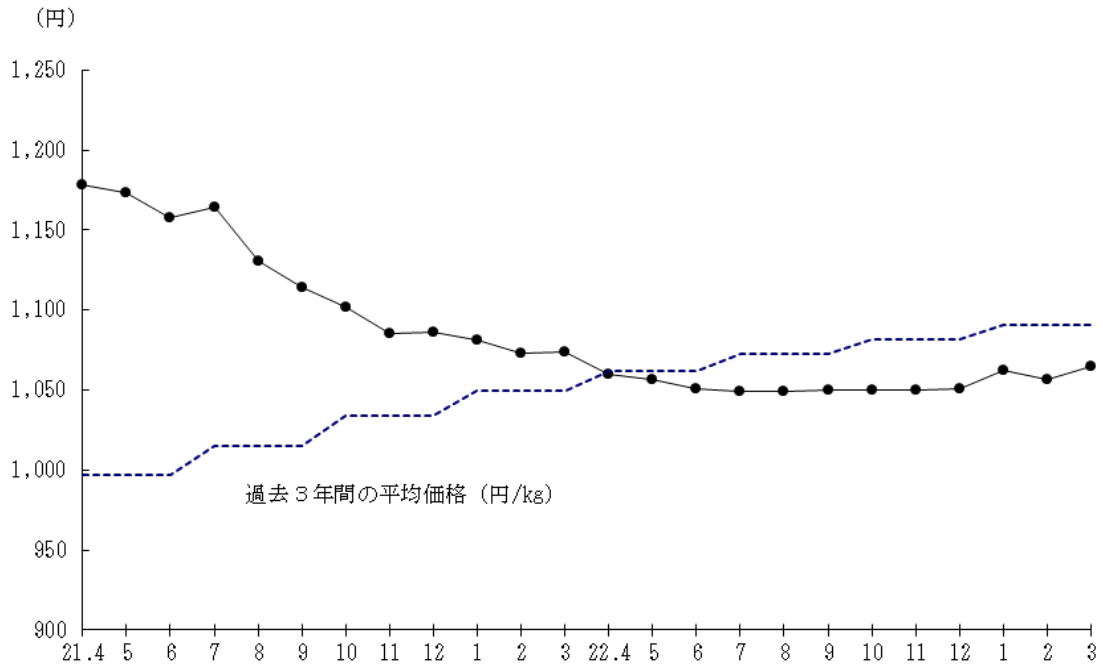
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

エ 指定乳製品の価格動向

平成22年度のバターの市況(大口需要者向け価格：農林水産省牛乳乳製品課調べ、以下同じ。)は、8月まではバター在庫量の増加を反映し、下落傾向で推移した。その後、夏季における記録的な猛暑の影響による生乳の生産減少がバターの生産量及び在庫量に反映されるようになると、9月以降の価格はゆるやかな上昇に転じ、23年3月においては1,065円/kg(前年度比99.2%)となった。

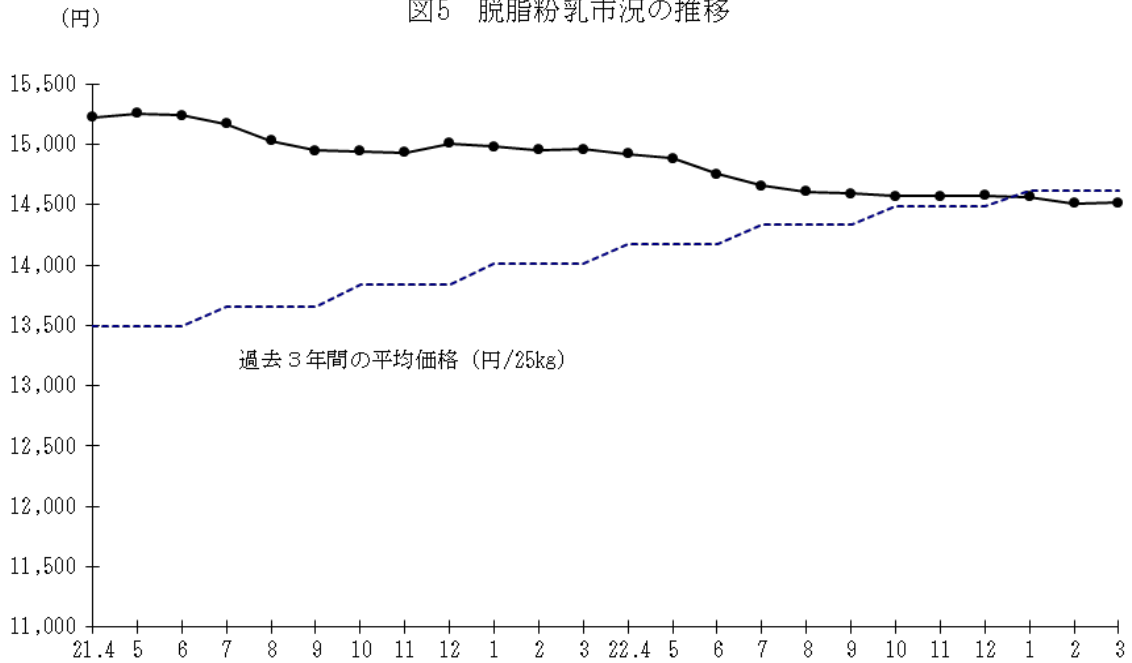
脱脂粉乳の市況は、平成21年度10月以降ほぼ前年を下回って推移し、23年3月においては14,515円/25kg(同97.0%)となった(図4、図5参照)。

図4 バター市況の推移



注：価格は消費税込みである。

図5 脱脂粉乳市況の推移



注：価格は消費税込みである。

(2) 指定乳製品等の輸入及び売渡し

平成 21 年度カレントアクセス分の輸入契約を平成 22 年 3 月に締結し、同 6 月から平成 23 年 1 月にかけて売渡した。売渡数量は脱脂粉乳 1,009 トン、バター 1,643 トンである。平成 22 年度分については、平成 23 年 1 月にバター 4,231 トンの輸入契約を締結した。

また、SBS（売買同時入札）品目による輸入・売渡入札も、平成 22 年 5 月と 10 月の二回にわたり実施した。その結果、ホエイ及び調製ホエイ 7,258 トン、デイリースプレッド 1,565 トン、バターオイル 1,066 トンの契約を締結した。

機構以外の者に係る指定乳製品等の輸入（TE による輸入）については、買入・売戻件数は 653 件で、その数量は 420 トンとなった。全体としては前年度の 563 件、412 トンからやや増加している。前年度比で大きく数量が変化したものとしては、脱脂粉乳の半減（平成 21 年度 125 トン・平成 22 年度 63 トン）、ホエイの増加（平成 21 年度 110 トン・平成 22 年度 157 トン）が挙げられる。

表 8 指定乳製品等の輸入入札・検収状況

(単位：トン)

入札年月日	品目	輸入入札数量	落札数量	検収数量	備考
22.03.09	バター	1,668.0	1,668.0	1,642.9	21 年度カレントアクセス分
22.03.11	脱脂粉乳	1,013.0	1,013.0	1,008.8	同上
23.01.26	バター	4,231.0	4,231.0	0.0	22 年度カレントアクセス分

表 9 指定乳製品等の売渡入札状況

入札年月日	品目	売渡入札数量	落札数量	備考
22.06.24	脱脂粉乳	184.3	184.3	21 年度カレントアクセス分
22.06.24	バター	108.1	108.1	同上
22.07.15	脱脂粉乳	338.5	338.5	同上
22.07.15	バター	282.5	184.9	同上
22.08.24	脱脂粉乳	394.9	394.9	同上
22.08.24	バター	631.3	631.3	同上
22.09.16	バター	372.8	372.8	同上
22.10.14	バター	231.9	231.9	同上
22.11.18	脱脂粉乳	45.4	45.4	同上
22.11.18	バター	24.8	24.8	同上
22.12.16	バター	44.6	44.6	同上
23.01.13	脱脂粉乳	45.7	45.7	同上
23.01.13	バター	44.6	44.6	同上

表 10 バターの売買状況

(単位：トン)

品目	期首在庫	買入数量	売渡数量	期末在庫
バター	0	1,642.9	1,642.9	0

表 11 脱脂粉乳の売買状況

(単位：トン)

品目	期首在庫	買入数量	売渡数量	期末在庫
脱脂粉乳	0	1,008.8	1,008.8	0

表 12 ホエイ及び調製ホエイ (SBS 方式) の売買状況

(単位：トン)

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
21.05.26	3,000.0	3,000.0	13.9	21年度カレントアクセス分
21.09.17	6,000.0	5,441.0	1,963.7	同上
22.05.25	4,000.0	3,258.0	3,201.0	22年度カレントアクセス分
22.10.26	4,000.0	4,000.0	1,429.8	同上
計	-	-	6,608.4	

表 13 デイリースプレッド (SBS 方式) の売買状況

(単位：トン)

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
21.10.29	1,500.0	505.0	333.7	21年度カレントアクセス分
22.05.27	1,000.0	595.0	294.4	22年度カレントアクセス分
22.10.28	1,000.0	970.0	169.2	同上
計	-	-	797.2	

表 14 バターオイル (SBS 方式) の売買状況

(単位：トン)

入札年月日	入札数量	落札数量	売買数量	備考
22.02.09	500.0トン	116.0	115.8	21年度カレントアクセス分
22.05.26	1,000.0トン	909.3	907.5	22年度カレントアクセス分
22.10.28	500.0トン	156.6	104.7	同上
計	-	-	1,128.1	

2 指定食肉

(1) 牛肉

平成 22 年度の東京及び大阪の中央卸売市場における牛枝肉省令規格(去勢牛「B-2」及び「B-3」)の平均卸売価格は、交雑種がと畜頭数の減少により値上がりしたことから前年度を 8.5% 上回った。また、卸売価格は年度を通じて安定基準価格を上回って推移したことから、機構による買入れ等の措置には至らなかった。

表 15 牛枝肉卸売価格の推移

年度・月	省令価格（去勢牛肉「B-3」及び「B-2」）	
	東京・大阪加重平均	
	価格 (円/kg)	対前年比 (%)
平成 18 年度	1,292	96.7
平成 19 年度	1,186	91.8
平成 20 年度	1,083	91.3
平成 21 年度	1,034	95.5
平成 22 年度	1,122	108.5
平成 22 年 4 月	1,127	106.4
5 月	1,095	102.0
6 月	1,015	99.9
7 月	1,025	101.0
8 月	1,059	105.3
9 月	1,093	109.4
10 月	1,146	112.4
11 月	1,166	117.1
12 月	1,270	113.9
平成 23 年 1 月	1,156	114.7
2 月	1,165	111.8
3 月	1,137	109.0

資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：消費税込みの価格である。

(2) 豚肉

平成 22 年度の東京及び大阪の中央卸売市場における豚枝肉省令規格（「上」以上）の平均卸売価格は、宮崎県における口蹄疫の発生や夏の記録的猛暑によりと畜頭数が減少した影響から、前年度を 10.0% 上回った。また、卸売価格は年度を通じて安定基準価格を上回って推移したことから、機構による調整保管等の措置には至らなかった。

表 16 豚枝肉卸売価格の推移

年度・月	省令規格	
	東京・大阪加重平均	
	価格 (円/kg)	対前年比 (%)
平成 18 年度	479	101.3
平成 19 年度	519	108.4
平成 20 年度	496	95.6
平成 21 年度	431	86.9
平成 22 年度	474	110.0
平成 22 年 4 月	424	103.4
5 月	483	100.4
6 月	538	105.3
7 月	489	100.4
8 月	497	125.2
9 月	519	133.4
10 月	437	112.6
11 月	437	109.0
12 月	468	103.3
平成 23 年 1 月	425	102.2
2 月	502	119.8
3 月	486	117.1

資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：消費税込みの価格である。

3 鶏卵

平成 22 年度の鶏卵の平均卸売価格（東京、M規格）は、生産者が需要に応じた生産に取り組んだことなどから、年度平均では前年度より 10.3% 値上がりし、機構による調整保管等の措置には至らなかった。

なお、（社）全国鶏卵価格安定基金及び（社）全日本卵価安定基金による価格差補てん事業では、平成 22 年度は 4 月から 8 月と 1 月に標準取引価格が補てん基準価格を下回ったため、両基金から総額 266 億 2,670 万円の補てん金が事業参加生産者に交付された。

表 17 鶏卵価格の推移（東京、M規格）

月	卸売価格				鶏卵価格安定制度の発動状況			
	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
	東京「M」 (円/kg)	対前年比 (%)	東京「M」 (円/kg)	対前年比 (%)	標準取引価格 (円/kg)	補てん単価 (円/kg)	標準取引価格 (円/kg)	補てん単価 (円/kg)
4 月	173	89.6	177	102.3	163.2	25	172.4	7
5 月	167	85.6	178	106.6	159.0	28	175.8	4
6 月	160	86.5	183	114.4	152.9	34	179.5	1
7 月	154	79.8	177	114.9	151.3	35	177.3	3
8 月	157	80.1	166	105.7	158.6	29	171.5	8
9 月	188	87.0	193	102.7	190.1	0	195.7	0
10 月	184	87.2	197	107.1	182.7	7	194.6	0
11 月	188	91.7	206	109.6	183.7	6	203.1	0
12 月	209	101.0	240	114.8	206.0	0	233.5	0
1 月	151	101.3	184	121.9	140.5	26/21	178.3	2
2 月	194	104.3	203	104.6	186.6	0	202.0	0
3 月	177	98.3	217	122.6	169.3	0	211.6	0
平均	175	90.7	193	110.3	191	—	181	—

資料：JA 全農たまご株式会社

注 1：卸売価格は消費税を含まない。

注 2：鶏卵価格安定制度の平均欄は補てん基準価格